

発言No. 19

受付No. 9

令和2年11月19日

9時24分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 13番

氏名 布施 賢司

答弁を求める者

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 公立幼稚園施策について

(1) 浜田市立幼稚園の統合方針について

浜田市内の市立幼稚園4園について、2023年度（令和5年度）に1園に統合する方針を、10月26日の総務文教委員会で公立幼稚園の今後のあり方（案）について、教育委員会から説明されました。その翌日の新聞報道は、「統合する方針を決めた」と報道があったことから、「もう決定!」「決定するまでに、少しは意見や要望を聞いて実施して欲しかった」と、怒りと落胆に近い声を多くの保護者や関係者から聞いております。

これまで公立幼稚園の将来展望として閉園、統合に関して同僚議員が平成23年に一般質問をしており、当時の教育長は公立の幼稚園は存続するが、1園は閉園するとの方針から、閉園する幼稚園を原井幼稚園に決定、また、平成25年度末で原井幼稚園を閉園して、石見幼稚園に統合するという方針に決定した。平成24年に同園の保護者達が、存続を求める署名簿を3月と11月に市に提出し方針撤回を求めたことにより、当時の市長見解で統合は当面見送りとなり、統合新園建設（平成30年頃をめど）も含め検討するというものでありました。そういった経緯もあり、統合する話が出たときには、休園になっている原井幼稚園と石見幼稚園の統合だと思っていました。延び延びになっている2園の統合と新園建設の方針を打ち出しておいて、幼児（3～5歳児）の就園状況や行革の実施計画で幼稚園を統合する計画があるにしても、4園（原井幼稚園は休園中）を1園にする方針案は、少なくとも私は現時点で容認できませんので以下質問させていただきます。

① 幼稚園問題において、無償化や該当保護者の希望の減少等、公立幼稚園の存在意義があらためて問われています。他市では園児数がごく少数でも特色ある取組をされて存続している幼稚園もあるように、統合問題を行革、少子化の視点から議論することはどうなのか、幼稚園の統合が地域に、将来を担う子どもたちの人格形成にどう影響するのかなどを考えた上で公立幼稚園問題を判断すべきだと思うが、ご所見をお伺いします。

② ただ単に少子化や働く人が増えて公立の幼稚園に預ける幼児数が減っているのではなく、今まで長年、園児数を確保するために、園や保護者からの意見や要望がありながら、それに応えてこなかったそのものの姿勢がその大きな要因の1つになっていると私は思いますが、それについてどう思われるのか伺います。

③ 預かり保育や給食等の要望を出すと、ことあるごとに民業を圧迫してはいけないと言われますが、保育園の伸びは4、5年前から減る傾向にあるが、公立幼稚園や、私立幼稚園の影響で定員割れを招いているとは思えない。直近の保育所の定員と入園者数（浜田自治区）私立幼稚園の入園者数をお伺いする。

④ 後手となった保護者説明会(11月3日浜田公民館)。出席した人の数や保護者在園名、男女の比率、地元・転勤族かどうか等、また、保護者からはどのような意見が出て、どう答えたのか伺います。

⑤ 浜田市の公立幼稚園のめざす方向性についての中で、教育課程の実践を継続するためには、一定規模の園児数が必要であるとしているが、一定規模の園児数とは何人なのか、また、要望されていることを今打ち出し取組まないと、現在の50人どころか、2年の間に今以上に減る可能性があり、1園存続することさえも危なくなる可能性があるが、ご所見をお伺いします。

⑥ 園舎について、各園それぞれ修繕箇所が多くあり、石見幼稚園は今年度、遊戯室の天井の一部が剥がれ落ちたりしている。また、雨漏りができており、見積もりは800万だったが、トイも一緒にすると1,000万になる。そこまで修繕費用をかけることはできないと言われた。手つかずの状態ではないか。こんなことでいいのか、あと2年で統合するから直さないのか、それとも財政がストップをかけているのか、お伺いする。

⑦ 先生方の話として、統合の方針案が出て、それでも入園しようとする人が数名おられ、大切にしたいと思っている。この幼稚園2年でもこの環境の中で、伸び伸びと遊ばせてやりたい。長浜幼稚園に通うことになるにしても、園児たちには「もっと楽しい思い出ができるよ」と言って送り出してやりたいとも言われた。園として本当に頑張っているともいわれた。それにはまず、入園してもらわなければならない。行政として園の努力は求めても、幼稚園の先生方や今の体制でお願いばかりされているが、入ってもらう時に行政が「どれだけ手を差し伸べてくれるか」、「統合するまでにこれだけのことをします」と、ちゃんと言わないとダメだと思うが、ご所見をお伺いする。

2 コロナ禍で行事の再確認できる大切さについて

① コロナ禍で子ども達もさまざまな課題に直面してきている。課題に直面したときの行動の仕方を学び、習慣として身に付けるために支援する事も、学校の役目の一つであると思う。

修学旅行・学校祭などの学校行事や部活動の試合などは、生徒や保護者の気持ちなどを考えると本当に苦渋の決断をしなければならないことが何度もあったと思います。

先生たちは授業改善に話し合いや業務改善などを通して効率的に職務を果たし、勤務時間短縮に向けて取組んでおられ、また、諸行事などの内容の見直しや、オンライン授業などの検討を行う良い機会になったと思います。秋は運動会シーズンでした。各園、学校がコロナ禍の中で工夫して、運動会の検討、実施された事でしょう。会場が3密にならないように「学年ごとに保護者、子どもを入れ替える」などの配慮しての開催。1つの学年の参加時間が短くても、種目を精選しての実施。この状況を「物足りない」「さみしい」「今年の子どもはかわいそう」と思ったと親御さんの言葉をききました。私もそう思うことがありましたが、園や学校にお邪魔してこれまでの様子をお伺いすると、「出来ないのではなくて、どうすればいいのか」知恵を出し合い工夫され取組んでおられました。私の前段でのその気持ちは払しょくされ、そう思っただけは子ども達にとってプラスにならないと悟りました。今年新型コロナウイルスのため、さまざまな行事を見直さざるを得なくなっています。しかし、これを機会に「今までの行事の在り方は正しかったのか？」と振り返ることが大事であり、そうした意味では、「行事や保育の本当の意味を再確認するチャンス」であると思いますが、ご所見をお伺いします。